

# ギリシア経済危機と政治変動

村田 奈々子

## はじめに

2009年秋以降明らかになったギリシアの財政危機はユーロ圏に波及し、その後世界経済を揺るがす事態となった。このユーロ危機は、当初の衝撃こそ薄らいだものの、今日にいたるまで抜本的な解決をみていない。危機の震源であるギリシアの経済は低迷を続けており、成長の見通しは立っていない。社会は疲弊し、政治への不満が常にくすぶっている。ギリシアのユーロ離脱、EU離脱の可能性がなお取り沙汰される状況にある。

この危機は、経済の領域にとどまらずギリシア政治に大きな変動をもたらした。本稿ではまず、危機が顕在化してから今日までのギリシアの経済状況を簡単に振り返る。そのうえで、この危機がもたらしたギリシアの政治変動について述べる。

本稿では特に、変動の過程で台頭したネオ・ナチの極右政党「黄金の夜明け」(Χρυσή Αυγή, 以下にXAと記す)に注目する。XAは、危機後の政治変動の過程で、国会に議席を持つにいたるまで勢力を拡大した。XAの政党としての主張を明らかにし、XAの主張のどのような点にギリシア国民が共鳴し、XAの台頭を可能としたのかを探る。

## 1. 財政危機から今日までの経済状況

財政危機発覚以降、今日までの流れを簡単にまとめると【年表1】のようになる。2009年10月の総選挙で、それまで政権を担っていた新民主主義党(ND)が敗れ、全ギリシア社会主義運動(PASOK)が勝利した。政権樹立直後、PASOKの党首であり首相であったゲオルギオス・パパンドレウは、前政権が公表していた財政赤字の数字が正確ではなかったことを明らかにした。GDP比で5%程度とされていた財政赤字は、実は12.7%に達し

【年表1】 危機以降のギリシアへの支援と総選挙

2009年10月	総選挙
	新民主主義党（ND）から全ギリシア社会主義運動（PASOK）に政権交代 財政赤字の大幅な増大が表面化
2010年5月	ギリシアへの第一次支援（1100億ユーロ）
2011年11月	PASOKババドレウ首相国民投票の呼びかけ後、辞任
	ババディモス首相によるPASOK, ND, LAOS連立政権樹立
2012年2月	ギリシアへの第二次支援（1300億ユーロ）
2012年5月・6月	二度の総選挙
	ND, PASOK, 民主左派の連立政権樹立
2015年1月	総選挙
	急進左派連合（SYRIZA）政権樹立
2015年7月	緊縮策継続の是非を巡る国民投票実施
2015年9月	総選挙
	第二次SYRIZA政権発足

ていたというのである<sup>1</sup>。（2010年4月には13.6%に修正された。）

これを契機に、フィッチ（Fitch Ratings Limited）、スタンダード・アンド・プアーズ（Standard & Poor's）、ムーディーズ（Moody's Corporation）という世界三大格付け会社が次々とギリシア国債の格付けを引き下げた。ギリシア国債は暴落し、ユーロの価値は下落し、世界各国の株価も暴落した。ユーロ危機の到来である。

この危機への対応策として、欧州連合（EU）、欧州中央銀行（ECB）、国際通貨基金（IMF）の三者——通称「トロイカ」による、ギリシアへの総額1100億ユーロの資金援助が決定された（2010年5月）。援助の見返りに、ギリシアは緊縮財政政策と構造改革の実行を約束した。2012年2月には、同じ三者による1300億ユーロの第二次支援が決定された。現在（2016年10月）ギリシアは、2015年8月に決定された860億ユーロにのぼる第三次支援を受けているところである<sup>2</sup>。ただしこの第三次支援については、IMFは参加を見合わせている<sup>3</sup>。

支援を受け入れて6年となる今、果たして、ギリシアの経済は好転したのだろうか。【表1】<sup>4</sup>は、ギリシアのマクロ経済の動向を示している。ここ

【表1】ギリシアのマクロ経済動向

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
一人当たりGDP	€19,769	€21,061	€21,845	€21,386	€20,324	€18,643	€17,311	€16,451	€16,250	—
実質GDP (前年比)	5.7%	3.3%	-0.3%	-4.3%	-5.5%	-9.1%	-7.3%	-3.2%	0.7%	-0.2%
対GDP比対外債務 政府部門	—	—	79.8%	95.3%	81.3%	76.7%	128.0%	150.2%	151.6%	150.6%
失業率	9.0%	8.4%	7.8%	9.6%	12.7%	17.9%	24.6%	27.5%	26.6%	25.0%
25歳未満	24.9%	22.7%	21.9%	25.8%	32.8%	44.6%	55.5%	58.4%	52.6%	49.8%
25歳以上	7.5%	7.2%	6.7%	8.4%	11.2%	16.0%	22.3%	25.4%	24.8%	23.5%

からも、ギリシアの経済が決して良い状況に置かれていないことがすぐに読みとれる。2009年と2014年の1人当たりGDPの比較では、21,386ユーロから16,250ユーロと、約25%の落ち込みである。政府部門の対外債務も、対GDP比で2009年の95.3%から2015年は150.6%まで膨れ上がっている。ギリシア国民にとって特に切実なのは失業問題である。2015年には4人に1人が職に就けない状況である。特に25歳未満の若年層の失業率は深刻で、半数が就職していない。

ギリシア経済の低迷の原因はどこにあるのか。原因はさまざまに考えられよう。ひとつには、ギリシアに援助された資金が、ほとんど債務の返済で消えてしまったということがある。したがって、援助資金はギリシア経済そのものの再生・活性化には振り向けられることはなかった。経済は冷え込み、その結果税収も落ち込むという悪循環に陥ることになった<sup>5</sup>。もうひとつには、資金援助の見返りの条件とされた構造改革と財政緊縮策の実施の遅れが挙げられる。

この6年間、ギリシア政府は構造改革と財政緊縮策をまったくおこなってこなかったわけではない。増税の実施、新税の導入、そして年金の減額や支給年齢の引き上げ、肥大化した公務員の解雇、公的セクターの民営化が次々と進められてきた。しかしながらこれらの政策は、企図された当初の計画通りには進んでいない。

既得権益を持つ者たちによる緊縮財政実施に反対するデモは、危機直後は日本のメディアでも頻繁に報道された。そのような国民の反対行動が、政府による法の制定と施行に一定の制限を与えることになった。

民営化プログラムの遅れについて、その原因を分析した土屋陽介は、以

下の4点を挙げている<sup>6</sup>。第一に経済的要因である。ギリシア経済そのものの不安定な状況のもとでは、国有企業の民営化をすすめようにも、投資家の意欲が低いために、民営化は停滞せざるを得ない。さらに、経済危機によりギリシアの内需が縮小したことで、収益率も悪化しているため、投資家がなかなか民営化対象資産に手をつけがたい状況を生んでいるという。

第二に、政治的な要因が指摘されている。後述するように、危機が発覚して以降、ギリシア政治は大きな変動を経験した。この変動は当然のことながら政治の不安定化を招き、政策の一貫性を欠くこととなった。1974年に民政に移管して以来二大政党として政権を担ってきたNDとPASOKは、危機後は連立政権をつくり、トロイカの要求に応える姿勢を示していた。しかし実際は、既得権益層、特にPASOKの支持基盤であった公務員系労組（ADEDY）の強い抵抗を考慮せざるを得ず、思い切った策に出ることができなかった。一方、今日政権の座にある急進左派連合（SYRIZA）は、そもそも緊縮策と民営化への反対を旗印に急速に台頭し、国民から広く支持を集めた政党である。このため、SYRIZA政権は積極的に民営化に取り組んでいるとは言い難い。

第三の要因として、制度的な不備があると土屋は指摘する。不動産向け資産台帳の未整備といった技術的欠陥、所有権移転・開発行為開始などの手続きの煩雑さに見られる行財政・法会計制度の欠陥がまずは挙げられる。それに加えて、2011年7月に民営化を推進するために設立された資産管理会社（HRADF）が、独立性を保持できなかったということもある。不安定な政局のなかで、HRADFが政党からの強い圧力と影響力のもとにおかれたこともあわせて指摘される。

第四に挙げられるのは、ギリシア特有の社会的要因である。ギリシアの有力な企業が、政府と結びついて政策を自らの利益のために誘導する「国家捕獲（state capture）」である。ギリシア人政商（oligarch）の存在が、外国人投資家が民営化に参入する意欲を減退させているというのである。また、たとえ民営化が実現されたとしても、政府と密接に結びついた政商のもとでの経営では、民営化が本来目指す生産性の改善も見込めないという

ことになる。

現政権のSYRIZAは、かつての二大政党と政商の癒着を強く批判し、クリーンな政治を目指すとしていた。しかし、2016年8月に実施されたテレビ局への認可付与のオークションに際しては、やはり政商との裏取引が指摘されている<sup>7</sup>。ギリシア社会に深く根付いたクライエンテリズムからの脱却が困難であることを示す一例と言えらる。

ギリシア経済は行き詰まり、停滞状況が続く<sup>8</sup>。現状の枠組みでの支援の継続は、ギリシア経済、ひいてはユーロ圏とEU諸国の安定に対して、抜本的な解決策を示してはいない。ギリシア危機は再び繰り返される可能性がある。

## 2. 危機後の政治変動

経済の専門家の多くは、ユーロとEUの安定が絶対に必要であるという前提からギリシア危機を論じる。この二者が安定しさえすれば、国としてのギリシアがどうなろうと、彼らの関心の外であるかのような口ぶりである。彼らが、当事国ギリシアに生きる人々の立場から、この危機を考えることはない。彼らがギリシアやギリシア人について言及するときは、常に責めを負うべき対象として語ることがほとんどである。ギリシアは「失敗した国」である。EU加盟によって与えられた好機を生かすこともせず、西ヨーロッパの国々のように近代化することもできなかった。ギリシアは、過去の後進的な政治文化——腐敗とクライエンテリズム——が蔓延する国であるという言説が世界に流布した<sup>9</sup>。「失敗した国」ギリシアというステレオタイプは、ギリシア国内のメディアや政治家の口からも聞かれた。危機勃発後、あるPASOKの政治家は、「Μαζί τα φάγαμε.»「われわれはみんなで一緒に食べてしまった」と発言した。意味するところは、腐敗とクライエンテリズムにギリシア人すべてが同じように手を染めてきたのだから、今回の危機についてもギリシア人みな等しく責任を負うべきだ、ということである<sup>10</sup>。危機の原因の一端を担った政権の失政を顧みることなく、危機の責任をギリシア国民全体に転嫁した発言である。この発言には、

トロイカから課された財政緊縮策と構造改革プログラムの実施に対して、国民の合意をスムーズに得ようとの思惑が見え隠れしている。ギリシア国民は、政治家のこのような詭弁に惑わされることはなかった。これまでのギリシア政治は、国民から「罰せられる」ことになった。

当のギリシア国民は果たしてどう考えていたのか。それは危機後の選挙によって示されることとなった。経済危機は1974年の民政復帰移行後のギリシア政治に大きな変化をもたらすこととなった。

ギリシアの財政危機が本格化して以降、3度の総選挙を経て、ギリシアの政党の勢力関係が大きく変わった。危機後はじめておこなわれた2012年5月の選挙は、SYRIZAが第二党に躍進した。前回2009年9月の総選挙では4.6%の得票率に過ぎなかった弱小政党が、得票の16.78%を獲得し第二党となったのである。第一党のNDの得票率は18.85%（2009年は33.47%）で、僅差だった。1974年の民主政復帰後、ギリシア政治は中道右派のNDと中道左派のPASOKの二大政党が交互に政権を担ってきた。1981年から2009年にいたるまで、この二党が全投票数の80%台を獲得しつづけ、両者が交互に政権を担ってきた。その構図がものの見事に崩れた。二大政党の一翼をになったPASOKの凋落ぶりは激しかった。2009年の総選挙で43.92%の得票率を得て政権の座についたPASOKではあったが、2012年5月にはわずか13.18%の得票率にとどまった<sup>11</sup>。

2012年の選挙では、2010年以降のトロイカからの資金援助の見返りに約束した財政緊縮策と構造改革プログラムの実行を、ギリシア国民が支持するかが問われていた。したがって、すでに2年目にはいる緊縮策にギリシア国民がいかに強く反発しているのかを如実に示す選挙結果となった。SYRIZAは緊縮策反対を主張する政党だったからである。

二大政党はこれまで、ギリシア国民に対してさまざまな政治的恩恵（給与や社会保障、年金、市場リスクからの保護、違法行為の免責）を与える見返りに票を獲得するという「契約」に基づいて、国の運営を担ってきた。それは「ポピュリスト民主主義」と形容できる政治の手法だった<sup>12</sup>。ところがここに財政危機があきらかとなり、国民は我慢を強いられるだけで、

二大政党から恩恵を受ける可能性がなくなった。「契約」が不成立となった今、国家の危機的状況の責任はNDとPASOKというかつての二大政党にすべてなすりつけられることになった。

選挙後、政府の樹立にはいならず、翌6月再度選挙が実施された。この二度目の総選挙までの間、かつての二大政党NDとPASOK、そして世界のメディアは、緊縮策に反対するSYRIZAがもし第一党となり政権を握ることになれば、ギリシアは遠からずユーロ圏、ひいてはEUから離脱することになるだろうとの宣伝を繰り返した。ギリシア国民の過半数はEUから離脱することには反対していた。国民はこのメディアの宣伝にすくなく動揺した。ユーロ圏、EUから離脱したら自分たちはどうになってしまうのか。EU加盟国のどの国も、どの国民も経験したことのない事態を前に、ギリシア人は身構えた。不透明な将来への不安は投票行動に表れた。二回目の総選挙では、NDを支持する票が伸び、得票率は29.99%となった。NDは党首アンドニス・サマラスを首相として、PASOKと民主左派(DIMAR)との連立政権を樹立した。一方第二党につけたSYRIZAも、前回より得票率を伸ばした(26.89%)。メディアによる「脅し」にも関わらず、これだけの得票率を獲得できた背景には、二大政党のポピュリズム政治の手法の拒絶、緊縮策への反対、そしてギリシア政治の新たな始まりへの希望と期待といった、国民のさまざまな思いが錯綜していたと考えられる。

サマラス政権に課せられた役割は、トロイカからの課題を肅々と実行することだった。国の財政を握られ、頭を低くして債権者の要求に従う政府の姿は、ギリシアがもはや主権国家ではないとの印象を多くの国民に抱かせた。

2015年1月の総選挙で、SYRIZAは36.34%の得票率で第一党となった。NDは得票率27.81%で第二党につけた。PASOKはさらに凋落し、得票率4.68%でかろうじて議会に13議席を確保できたというにすぎなかった<sup>13</sup>。党首アレクシス・ツィプラスは、首相として、同じく反緊縮を掲げた右派の独立ギリシア人党(ANEL)との連立政権を樹立した。EU諸国で初めて、緊縮策に反対する政権が誕生したのである。

SYRIZAが圧勝することはある程度予想がついていた。前節でみたように、緊縮策実施後も景気は冷え込んだままだった。危機後の政府は、構造改革への道筋をつけることが結局はできなかった。政府と国民の間には常に不信が存在した。ギリシア社会は出口のない悪循環のなかで疲弊しきっていた。国民は、トロイカの押しつける緊縮策に従っていても明るい未来を思い描くことがもはや不可能であることを悟った。国外の経済学者からも、ギリシアの緊縮策は失敗だった、むしろ景気刺激策と成長戦略に切り替えるべきだという意見が聞かれるようになっていた。このことも、ギリシア人のSYRIZA支持へ弾みをつけた<sup>14</sup>。

### 3. 急進左派連合 (SYRIZA) の政治

SYRIZAは、トロイカが課す緊縮策の枠組みを撤回させ、債務の大幅な減免措置を求めることを国民に約束していた。トロイカの財政援助を受けながらも、財政緊縮策はとらない——このSYRIZAの公約は、第三者の目にはムシがよすぎるように映る。SYRIZAもまた、みずからの批判対象だった二大政党NDとPASOKが採用した大衆迎合的手法で国民の支持を拡大していったことは確かである。

国民も、ギリシア政治にはおなじみのポピュリズムの臭いが強く漂うSYRIZAに、全幅の信頼を置いていたとは思われない。しかし、少なくともSYRIZAは、疲弊しきった国民に閉塞状況から脱する希望を与えた。危機に陥ってからの政権は、緊縮策に固執し、ギリシアが救われる道はそれ以外にないと国民に語った。一方、SYRIZAは国民に「夢」を語った。

SYRIZAの党首で首相となったアレクシス・ツィプラスが、選挙中そして政権掌握後も、繰り返し口にしたのは、「αξιοπρέπεια (威厳)」という語である。

2015年1月の選挙で勝利したSYRIZAが政権政党として初めて臨んだ国会で、ツィプラス首相は1時間半に及ぶ施政方針演説 (2月8日)<sup>15</sup>を以下の言葉ではじめた。

大統領、国会議員のみなさん、1月25日にわが国民による選挙後に樹立された社会を救済する政府の基本目標は、わが国民による支配、EUの組織的枠組みのなかで果たす〔他国と〕対等の我が国の役割の復活、人道にかかわる危機への対処、わが国民の**威厳**、社会的正義、わが国の文化の再興である。

Kυρία Πρόεδρε, κυρίες και κύριοι Βουλευτές, η ανάκτηση της λαϊκής μας κυριαρχίας, η αποκατάσταση του ισότιμου ρόλου της χώρας μας στο θεσμικό πλαίσιο της Ευρωπαϊκής Ένωσης, η αντιμετώπιση της ανθρωπιστικής κρίσης, η αποκατάσταση της *αξιοπρέπειας* του λαού μας, η κοινωνική δικαιοσύνη και η πολιτισμική αναγέννηση της πατρίδας μας αποτελούν τους βασικούς στόχους της Κυβέρνησης κοινωνικής σωτηρίας που συγκροτήσαμε μετά την κυρίαρχη επιλογή του λαού μας στις 25 Ιανουαρίου. (イタリックは筆者による。以下同じ。)

こう述べたあと、SYRIZAは国民とかわした約束、すなわち公約のみに拘束される政党であることをツイプラスは宣言する。SYRIZAの議員にとって、国民との約束は、「名誉と、民主主義への信頼と尊重の問題である(θέμα τιμής, αξιοπιστίας και σεβασμού της δημοκρατίας)」とする。さらに、この選挙結果によって、「われわれは、希望と楽観的将来、**威厳**そして誇りを取り戻した(βλέπουμε την επάνοδο της ελπίδας, της αισιοδοξίας, της *αξιοπρέπειας* και της περηφάνειας)」とも述べる。

ツイプラスは、トロイカが課した「野蛮な緊縮策が実行された5年間(πέντε χρόνια μνημονιακής βαρβαρότητας)」を批判し、財政危機以降ギリシアが直面した問題に対する解決策を提示する。それは、窮状にあえいでいたギリシア国民には、文字通り「夢」のような政策だった。

演説の後半の総括の部分では特に「威厳」の語が繰り返されている。

われわれは、これまでの政権がわれわれに要求したような破滅に同意せよと言っているのではない。われわれが同意を求めているのは、負

担の軽減、救済、繁栄、進歩に対してである。それは、わが祖国を、ヨーロッパのなかで発言権と**威厳**を持ち、[他の国と] 平等で名誉あるものに再びすることに対する同意である。

Εμείς δεν ζητάμε συναίνεση στην καταστροφή, όπως μας ζητούσαν προηγουμένως άλλες κυβερνήσεις. Εμείς ζητάμε συναίνεση για τη λύτρωση, για τη σωτηρία, για την προκοπή, για την πρόοδο, συναίνεση για να ξανακάνουμε την πατρίδα μας ισότιμη, περήφανη, με φωνή, με **αξιοπρέπεια** στην Ευρώπη.

[ギリシア国民は] 脅しや最後通牒を単に無視することはなかった。彼らは威信を保ち、誇りと**威厳**があることを証明した。尊敬のみがこの国民には値する。この国民は、誇り高く歩いていくに値する。この国民は、**威厳**を持って生きるに値する。

Δεν απήφησε απλά τους εκβιασμούς και τα τελεσίγραφα, όρθωσε το ανάστημά του, διεκδίκησε υπερηφάνεια και **αξιοπρέπεια**. Σε αυτόν το λαό αξίζει μόνο σεβασμός. Του αξίζει να περπατά περήφανος. Του αξίζει να ζει με **αξιοπρέπεια**.

この国民の誇りと**威厳**を売り渡すことなど問題外である。

Δεν πρόκειται να διαπραγματευτούμε την περηφάνεια και την **αξιοπρέπεια** αυτού του λαού.

みなさんともに、次世代の未来のために、わが祖国のための闘いを行なおうではありませんか。わが国民が希望と**威厳**を再び獲得するためのこの闘い、失われた**威厳**を再び獲得するためのこの闘いを。この闘いをともに行なおうではありませんか。

Σας καλώ να δώσουμε μαζί αυτή τη μάχη για την πατρίδα μας, για το μέλλον των επόμενων γενεών, αυτή τη μάχη για να ξανακερδίσει ο λαός μας ελπίδα και **αξιοπρέπεια**, τη χαμένη του **αξιοπρέπεια**. Αυτή τη μάχη θα τη δώσουμε

ギリシア国民は、危機を単に経済の問題とは捉えていなかった。彼らにとって経済的苦境より耐えがたかったのは、ユーロ圏、EU圏のなかで独立国としての発言権を奪われ、「二級市民」に甘んじなければならないという現実だった。もちろん、EUが表立ってギリシアをそのように扱うことはなかった。問題は、ギリシア国民が危機以降のEU諸国によるギリシアの扱いを屈辱と感じ、心の傷に苛まれていたという事実である。ギリシア国民にとって、危機はギリシア人の威厳にかかわる問題だった<sup>16</sup>。

SYRIZAは、このギリシア人の心の傷を巧みに利用したという見方もできよう。しかし、ギリシア人の威厳の表明としてのSYRIZAの台頭と政権獲得は、行き詰ったギリシア社会に、一筋の光がさしてきたように思われた。「変化がおきる。ツイプラスはやってくれるよ。」当時、筆者がアテネで話を聞いたギリシア人のひとりには、こう興奮気味に語った。行き詰った現状を打破する変化へのすくなからざる期待を、ギリシア国民は持ったのである。

この演説から12日後の2月20日のEU財務相会議では、従来の緊縮策の枠組みを維持することを条件に、ギリシアへの金融支援の四ヶ月間延長が合意された。枠組みそのものを撤回し、より緩和された緊縮策策定を目指したSYRIZAの主張は早くも跳ね返された。SYRIZAは緊縮策を見直す時間的余裕が与えられたと強気の姿勢を示していた。2016年10月の現時点から振り返ってみると、SYRIZAの約束に、EUは最初から耳を貸そうとする意図がなかったことがわかる。

SYRIZAは、財相ヴァルファキスが先頭にたって、SYRIZAの公約する緊縮策の破棄と新たな枠組みでの返済プログラムを認めてもらうよう、EUに働きかけた。妥協しないヴァルファキスの態度に業を煮やしたドイツの財務相ヴォルフガング・ショーベルは、「愚かなほど単純だ」とヴァルファキスを酷評した<sup>17</sup>。結局、ヴァルファキス率いるギリシア交渉団と債権団の間には越えがたい対立と緊張が作り出されることとなった。4月

にはギリシア側交渉団の改組が実施され、ヴァルファキスに変わって、ツァカトスがギリシア側の先頭にたった。しかしながら交渉は難航し、ギリシアのユーロ離脱の可能性に市場は危機感を持ち始めた。

6月27日、ツイプラスは、債権団側から提示された新たな緊縮策の受け入れの是非を争点とする国民投票を7月5日に実施すると発表した。翌28日、ギリシア議会で国民投票実施の賛否を問う投票が行われた。賛成178票、反対120票で、実施が決まった。

首相ツイプラスの狙いは、国民の緊縮策反対の声を背に、債権団の提案の受け入れを拒否し、SYRIZAの公約を実現しようとするににあった。もちろんツイプラス自身も、この国民投票の結果を予想することはできなかった。しかしながら、ギリシア国民を苛んだ心の傷を癒す力、現状を変える力としてのSYRIZAの見せ場は今であるとも踏んでいた。ギリシア人の「威厳」を鼓舞することで、国民は必ずや緊縮策に反対の声をあげるだろう。この国民の声を、「民主主義」を理念の柱としているEUは、まったく無視することもできないだろう。こう彼は考えたに違いない。

EU側はこの決断に驚き、すぐさまSYRIZA政権に反発の態度を示した。ギリシアの支援には、ギリシアよりも貧しい旧共産圏の国々も参加していたが、彼らもこのギリシアの判断に憤った。6月30日、援助の見通しがないうまま、IMF債務の返済ができず、ギリシアは先進国初のIMF債務不履行国という不名誉を負った。第二次財政支援もこの日で終了となり、ギリシアは財政的な生命線をまったく失う中で、7月5日の国民投票を迎えることになった<sup>18</sup>。

ツイプラスは、6月27日、国営テレビで国民に向けて、国民投票という手段に訴えざるをえない理由を説明した。ツイプラスは、SYRIZA政権発足以来、公約を果たそうと債権団との交渉を精一杯やってきた。しかしながら、EUが提示した新たな緊縮案は、「ヨーロッパの社会的法規範と労働、平等、そして威厳の権利を直接的に侵害しており、諸組織の一部の仲間や成員は、構成員すべてにとって実現性がある利益のある合意を結ぶことではなく、全ギリシア国民を辱めることに興味をもっている (Oι

προτάσεις αυτές που παραβιάζουν ευθέως το ευρωπαϊκό κοινωνικό κεκτημένο και τα θεμελιώδη δικαιώματα: στην εργασία, την ισότητα και την *αξιοπρέπεια*, αποδεικνύουν ότι στόχος κάποιων εκ των εταίρων και των θεσμών, δεν είναι μια βιώσιμη και επωφελής συμφωνία για όλα τα μέρη, αλλά η ταπείνωση ολόκληρου του ελληνικού λαού.)」<sup>19</sup>と云う。したがって、彼らの要求を受け入れることは到底できない。ヨーロッパは、ギリシアの主張に耳を傾けようとする態度も見せない。これは、もはやヨーロッパが自らの存立基盤である民主主義を見失ってしまっている事態だと嘆く。

ツイプラスは、今こそ国民が声をあげて、みずからの意思をヨーロッパに示し、真の民主主義の力を示す時であると国民に呼びかける。この投票によって、自分たちの手で、「すべてのギリシア国民が、国民として心を一つにして、団結と冷静さを保って、われわれ自身に値する決定をしようではないか。われわれのために、次の世代のために、ギリシア人の歴史のために、われわれ国民の主権と**威厳**のために。(Σας καλώ όλους και όλες με εθνική ομοψυχία, ενότητα και ψυχραιμία να πάρουμε τις αποφάσεις που μας αξίζουν. Για εμάς, για τις επόμενες γενιές, για την ιστορία των Ελλήνων. Για την κυριαρχία και την *αξιοπρέπεια* του λαού μας.)」<sup>20</sup>という言葉で彼は演説を締めくくった。

翌6月28日、議会で国民投票実施の賛否を問う投票がおこなわれる前に、ツイプラスは、ギリシア議会で演説した。ユーロ圏の財務相会合からギリシア財務相が外されて、ギリシア危機問題が審議されたことに彼は憤りを隠さなかった。これは国民主権の蹂躪以外のなにものでもないと言っている。ツイプラスは、国民投票を「恐れる」EU諸国を、こう言って牽制する。国民投票はヨーロッパではめずらしい手続きではない。これまでも、ヨーロッパは、マーストリヒト条約、リスボン条約、ヨーロッパ憲法条約を国民投票という手段でその是非を問うてきた。それなのに何故、ギリシアの国民投票には脅迫まがいの言葉を浴びせ、中止させようとするのか。ギリシア危機を面白がっている者すらいるのではないかと彼は主張する。

しかし、紳士淑女のみなさん、ある国民——5年もの間、不正で乱暴な緊縮プログラムで奪われてきた国民——の**威厳**は戯れの対象ではない。150万人の失業者、300万の貧しい人々、数千にのぼる抑圧の例、失業、束になって国外に出て行く若者。[われわれが政権について] 実際に交渉を始めた5ヶ月間にこのようなことが起こったのではない。無情な緊縮策を課した覚書が実施された5年間におこったことである。この悲劇を最終的に終息させなければならない。このような戯れは、1月25日のギリシア国民の審判によって終わった。そしてこの次の日曜日のギリシア国民のあらたな審判によってこの戯れを完全に終息させねばならない。[中略] おそらく、[EU加盟国で国民投票に反対する人々は] 脅し、暴力、パニックをつくりだす努力をすることで、**威厳**をもって生きることを求める国民の意志を変えることができると信じていることであろう。彼らは大きな間違いをおかしている。ギリシアは、後戻りはしない。なぜなら、ギリシアの国民は、**威厳**を持って生きることを望んでいるからである。

Η *αξιοπρέπεια* ενός λαού, όμως, δεν είναι παιχνίδι, κυρίες και κύριοι συνάδελφοι, ενός λαού ληλατημένου πέντε χρόνια τώρα από άδικα και βάνανυσα προγράμματα λιτότητας. Ενάμισι εκατομμύριο άνεργοι, τρία εκατομμύρια φτωχοί, χιλιάδες λουκέτα, ανεργία, νέοι που φεύγουν μαζικά έξω από τη χώρα. Αυτά δεν έγιναν τους τελευταίους πέντε μήνες της πραγματικής διαπραγματεύσεως. Αυτά έγιναν τα πέντε χρόνια του μνημονίου της σκληρής λιτότητας, μια τραγωδία που πρέπει, επιτέλους, να τελειώνει. Αυτό το παιχνίδι τελείωσε με την ετυμηγορία του ελληνικού λαού στις 25 του Γενάρη και αυτό το παιχνίδι θα τελειώσει οριστικά με τη νέα ετυμηγορία του ελληνικού λαού την επόμενη Κυριακή.

[.....] Λογαριάζουν, ίσως, ότι με απειλές, εκβιασμούς, με προσπάθεια δημιουργίας πανικού, θα λυγίσουν τη βούληση ενός λαού που ζητά να ζήσει με *αξιοπρέπεια*. Κάνουν μεγάλο λάθος. Η Ελλάδα δεν μπορεί να γυρίσει πίσω, γιατί ο λαός της θέλει να ζήσει με *αξιοπρέπεια*.<sup>21</sup>

ツィプラスは、ここでもギリシア国民の「威厳」を持ち出して、外部の圧力に国民の意志が屈することはないと主張し、ギリシア国民に声をあげるよう促す。

7月1日に、ツィプラスは国営放送で、国民に再び呼びかける。このときの内容は、国民に対し「国民投票」が民主主義の原則から逸脱した方法ではないことを説明したものであった。同時に、この投票の結果により、ギリシアがユーロ圏から離脱する可能性はないという点も強調している<sup>22</sup>。緊縮策に賛成する野党や国際社会の「脅し」<sup>23</sup>に晒されていたギリシア国民の不安を取り去って、正直に自分たちの意見「緊縮策に‘Οχι（否）」を表明させるために必要と判断したためであろう。

国民投票の前日の7月4日、アテネの中心に位置する憲法広場で、ツィプラスは投票前の最後の演説に臨んだ。ここでも強調されたのは、ギリシア人の「威厳」であり、かつギリシアとヨーロッパとの一体性である。「‘Οχιがユーロ圏離脱に結びつく」との「脅し」を改めて否定することが意図されていたと思われる。

日曜日 [7月5日] われわれはともに、民主主義と威厳のメッセージをヨーロッパと世界に発信しよう。諸国民に、再び希望のメッセージを送ろう。なぜなら、日曜日にわれわれが決めるのは、単にヨーロッパにとどまろうということではないからである。われわれは、威厳を持って、ヨーロッパに生き、働き、繁栄を享受するということを決めるのだ。われわれは、ヨーロッパにおいて互いに平等であろうではないか。〔中略〕さあ、否を。日曜日には否と言おう。

Την Κυριακή δίνουμε όλοι μαζί μήνυμα δημοκρατίας και αξιοπρέπειας στην Ευρώπη και στον κόσμο. Στέλνουμε ξανά μήνυμα ελπίδας στους λαούς. Γιατί την Κυριακή δεν αποφασίζουμε απλά να μείνουμε στην Ευρώπη. Αποφασίζουμε να ζήσουμε με αξιοπρέπεια στην Ευρώπη, να δουλέψουμε και να προκόψουμε στην Ευρώπη. Να είμαστε ίσοι έναντι ίσων στην Ευρώπη. [.....] Ε λοιπόν, ΟΧΙ. Θα τους πούμε ΟΧΙ την

7月5日に予定どおり国民投票は実施された。結果は、緊縮策反対61.38%、賛成38.69%だった。ツイプラスの声に国民が応えた格好となった。緊縮策をもはや受け入れない、というのが国民投票が示したギリシア国民の意志となった。EUもこの結果を無視することはできないように思われた。これまでの緊縮案を棚上げにして、債務返済のための新たな枠組みをつくるため、SYRIZAの意向にも耳を傾けざるを得ないだろう。

ところが、である。EU側はこの国民投票の結果を完全に無視する態度を貫いた。7月8日、EU側は、SYRIZA政権が提示した案に対して、今後のギリシアへの財政支援と引き換えに、以前よりもより厳しい緊縮案（財政支出削減、増税など）を示した。そして、これに対し抵抗をやめるようツイプラスに迫った。もし妥協できないならば、ギリシアのユーロ離脱も覚悟するよう警告したのである。7月12日のブリュッセルでの欧州理事会は、17時間に及ぶ長丁場となった。そこでEU首脳らは、ギリシアに対して厳しい緊縮策を受け入れるよう要求し続けた。財政破綻回避とユーロの継続使用のために、ギリシアの財政主権の放棄を促した<sup>25</sup>。

ユーロ離脱が現実のものとなりかけていた。最終的には、ツイプラスはEU側に屈するしかなかった<sup>26</sup>。ツイプラスは国営放送で「自分は信用を置いていないが、実行せざるを得ない文書に署名をした」責任を認めた。「船長にとって最悪のことは、嵐の中で舵をとりながら、それ自体でも大変困難なことであるのに、舵をとるのを放棄しなければならないことである」と付け加え、行き場のない怒りを表現するのが精一杯だった<sup>27</sup>。

国民の声は、国民の「威厳」は、EUという組織を前にまったく無力だった。国民投票直後に辞任した財相ヴァルファキスは、ギリシアがユーロ圏から離脱することになった場合を想定した緊急計画を策定していたことを後日明らかにし、SYRIZA政府もこれを認めた<sup>28</sup>。ユーロ離脱は、政府がEU側に屈したことで実現することはなかった。

SYRIZAの「威厳」の語りが国民をひきつけたのはこの時点までである。

国民は、国民投票のあと二重に失望した。第一に、SYRIZAがいつも簡単に国民の「威厳」を放棄し、EUの提示した緊縮策に屈服した点に。第二に、民主主義を標榜しているEUが、ギリシア国民の声にまったく耳を傾けなかった点に。金のない国の国民の声など無視されるだけだ。国家主権などギリシアにはないも同然であるということを、国民投票は証明したにすぎない。EUはびくともしない。この枠組みにとどまってもギリシア再生の見通しは立たない。後味の悪い幻滅が広がった。

EU研究者の遠藤乾は、2016年6月に実施されたイギリスのEU離脱の是非をめぐる投票について、「EUは国家ではなく、将来においても国家にはならない。その主人はいまだ加盟国であり、加盟国の国民（多数派）が背を向け、その意向を民主主義的に表現されたら、それを止めるすべはない。今も昔も今後も、である。それほどに、主権的な意思の（民主的な）発露は、破壊力のあるものである。」<sup>29</sup>と述べている。しかし、このわずか一年前に実施されたギリシアの国民投票の結果に対するEUの態度をみると、この指摘には素直には納得できない。問題の所在は異なるとはいえ、ギリシア人の「主権的な意思の（民主的な）発露」が、まったく破壊力を持ちえなかったことは否定することはできないだろう。EU加盟国内に格付けが存在することを否が応でも認めざるを得ないだろう。イギリス人のNoとギリシア人のOχιの重みは異なるのである。

EUの緊縮策に屈したSYRIZAの方向転換は、党内から多くの離反者を生んだ。党内の引き締めを目的として、9月に再び総選挙が実施された。SYRIZAが再び第一党（得票率35.46%）<sup>30</sup>となり、SYRIZAとANELの第二次政権が発足した。しかし、1月に見られたような国民の熱狂はもはや影をひそめていた。

SYRIZAの政治手法は、典型的なポピュリストの手法と言えよう。野党であったときは、既存の政治体制に対するあらゆる層の不満を吸い上げる便利な受け皿としての機能を果たした<sup>31</sup>。しかし、みずからが政権を掌握し、体制の側に立つと、一転して身動きがとれなくなった。EUを無視することができなくなった。体制の側に立って、はじめて政治の現実を知っ

たのである。

SYRIZAへの支持率は下降の一途を辿っている。第二次政権発足後一年たった現在、第二党のNDに抜かれる状況である。民間の調査会社ALCOが支持政党に関して2016年10月に実施した調査では、ND21.5%、SYRIZA15.1%で、NDが6.4%リードしている<sup>32</sup>。SYRIZAは公約を反故にしたばかりか、前述したように、かつての政権同様の政商との結びつきも取り沙汰されるようになった。財政危機の原因を作ったこれまでの政権との違いを強調し、緊縮策を撤回し、国民の声を反映させ、「威厳」を回復することを約束して支持を拡大してきたSYRIZAも、結局は同じ穴のむじなであることが国民投票で露呈された。次の選挙でSYRIZAが勝利することは難しいであろう。

#### 4. 黄金の夜明け (Χρυσή Αυγή) の台頭

財政危機によって、ギリシア政治では、NDとPASOKが政権交代を繰り返してきた二大政党制が完全に崩壊した。政党は、緊縮策を支持する政党と反緊縮策を掲げる政党に二分され、この問題を軸に政治が展開された。2015年1月には反緊縮策を掲げるSYRIZAが政権を握った。しかし、主要な公約を果たすことも、またその実現への道筋をつけることもないまま現在にいたっている。疲弊した国民はやり場のない怒りと諦めのなかにある。

この政治・社会状況のなかで、政権をとるには遠く及ばないものの、安定した勢力として国会に議席を保っている政党がある。極右政党「黄金の夜明け」(XA)である。現在はSYRIZAとNDに続く第3政党である。XAは、財政危機直前の2009年10月総選挙ではわずか0.29%の得票率しか獲得できず、議会に議員を送るだけの勢力にはなりえない弱小政党だった。しかし、2012年5月の総選挙は6.97% (第5党)、翌6月の総選挙では6.92% (第4党)の得票率を獲得し、それぞれ21名、18名の議員を国会に送り出した<sup>33</sup>。

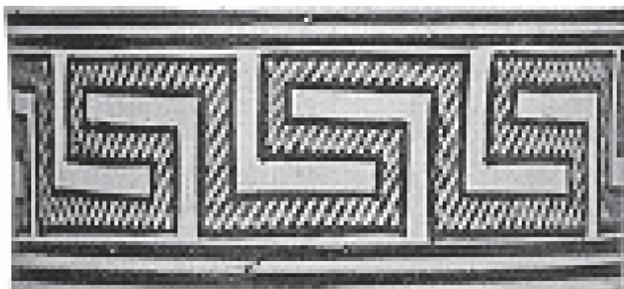
現代ギリシア史を振り返ってみると、極左の政治活動が民主主義を破壊した例はない。一方、極右の政治運動／支配が民主主義を脅かし、国民の権利を蹂躪し、社会を抑圧した例は複数ある。1936年にはじまるメタク

サス将軍の独裁政権、それに続いた第二次世界大戦期のナチ党ドイツの占領支配、そして、1967年から1974年までの軍事独裁政権である。これらの経験から、1974年に軍政が打倒され民政に移管して以来、極右政党は、ギリシアの政党システムでは周縁化された存在であった。極右に位置づけられる政党が初めて国会に議席を持ったのは、1984年のことである。NDを離反した議員によってつくられた国民正統連合（LAOS）が、得票率3.8%で10議席を獲得したときである<sup>34</sup>。危機が発覚する直前の2009年10月の選挙ではLAOSの得票率は5.63%で、15議席を獲得した<sup>35</sup>。しかし危機後の総選挙では、議席獲得に必要な3%の得票率に届かず、その後も得票率は徐々に減り続けた<sup>36</sup>。最大の原因は、LAOSが、緊縮策に賛成する立場をとったことにある。さらに、2011年から12年、第二次支援を交渉する役目を負った、ルカス・パパディモス暫定政府に参加したことで、既存の体制内にとどまる政党であるとみなされ、支持を大きく失ったと考えられる<sup>37</sup>。指導的立場にいたLAOSの政治家の多くはNDに鞍替えした<sup>38</sup>。LAOSは現在では地方議会にわずかに議席を残すのみである。XAの台頭とは対照的であると言えよう。

では、このXAの台頭は、どう理解することができるだろうか。

まず、この政党の設立の経緯、党の特徴をみていこう。今日のXAに連なる活動の萌芽は1980年にさかのぼる。前述のメタクサス将軍による独裁政権と関連するネオ・ナチの「8月4日党」の元黨員たちの集団が、1980年に発行した雑誌『黄金の夜明け』が始まりと言われる<sup>39</sup>。1983年2月14日に「民族連合—『黄金の夜明け』」という名称で政党を結成した。結党以来今日まで党首を務めているのは、ニコス・ミハロリアコス（1957年～）である<sup>40</sup>。ユーゴスラヴィア崩壊後、その一部領域が「マケドニア共和国」として独立した際（1991年）、ギリシア全体がその国家名称に反対するナショナリズムの熱狂に覆われた。その最中の1990年代に政党としての活動を本格化させたとされる<sup>41</sup>。

党自身は否定しているものの、XAはドイツのナチ党とさまざまな点で親近性を持つ。ギリシア雷文（メアンダー文）をモチーフとした党のシン



【図1】 ギリシア雷文



【図2】 黄金の夜明けのシンボル

ボルのデザインや色使いは、ナチ党の鉤十字を髣髴させる（【図1】<sup>42</sup> 【図2】<sup>43</sup>）。党のイデオロギーにもナチ党との類似が見られる。それは徹底した人種主義と暴力行使である。ギリシア民族第一主義の立場から、ギリシア人の純粋性を脅かす移民には反対の立場をとり、暴力による排斥を否定しない。さらに、国家と民族を同一視し、国家主権を脅かすあらゆるイデオロギーや外国の介入に反対する<sup>44</sup>。したがって、財政危機以降トロイカの緊縮策には一貫して反対するのみならず、反ユーロ、反EU、反ヨーロッパ、反グローバリズムの立場をとっている<sup>45</sup>。XAによれば、トロイカの緊縮策に肅々と従っているギリシアの現在の政治状況は「偽りの民主主義」に他ならない。腐敗した既存の政治はギリシアの主権を外国人に売り渡し

ている売国行為とみなされる<sup>46</sup>。

XAは党宣伝の手段としてインターネットを積極的に活用している。そのホームページには、XAの党員の心構えとして以下のようなことが記されている。

黄金の夜明けの民族運動は、民族殺しの緊縮策と既存の諸政党による罪深い体制に反対する戦いの第一線に位置している。〔現在の〕連立政府を構成している諸政党だけでなく左翼政党が推進している数百万の不法移民による人口構成の変化とギリシア社会の解体に反対する。〔黄金の夜明けの民族運動は〕われわれの祖国に強要された危機から脱するための民族主義的政策を提案する。ギリシア人に属するギリシアのために闘う。

To Λαϊκό Εθνικιστικό Κίνημα της ΧΡΥΣΗΣ ΑΥΓΗΣ βρίσκεται στην πρώτη γραμμή του αγώνα ενάντια στο εθνοκτόνο Μνημόνιο και στο αμαρτωλό καθεστώς των κομμάτων του πολιτικού κατεστημένου. Ενάντια στην πληθυσμιακή αλλοίωση, με τα εκατομμύρια λαθρομετανάστες, και την διάλυση της Ελληνικής κοινωνίας που προωθούν τόσο τα κόμματα της συγκυβέρνησης όσο και της λεγόμενης αριστεράς. Προτείνει μια Εθνική πολιτική για την έξοδο από την κρίση που επιβλήθηκε στην πατρίδα μας. Αγωνίζεται για μια Ελλάδα που να ανήκει στους Έλληνες.<sup>47</sup>

出口の見えない長引く財政危機の中で、既存の政治体制への信頼は失墜した。変革を期待したSYRIZAの政治にも、結局は裏切られた。EUもヨーロッパもギリシアの味方にはなりえない。ギリシア国民の一部はこの状況はもはや個人の力が及ばないところにあるという無力感に苛まれている。従来政治で周縁の位置にあったことがかえって、今日のギリシア政治のなかで、XAの急進的なイメージを補強しているように思われる。既存の政治体制、すなわち議会制民主主義への不信が著しいギリシアにあって<sup>48</sup>、XAの公の場での暴力行為は、否定的に働くどころか、むしろ肯定的に働いて

いるとも指摘されている<sup>49</sup>。実際、2012年5月と6月の総選挙の間に、XAの国会議員エリアス・カシディアリスは、共産党の女性議員をテレビ番組の放映中に平手打ちしたが<sup>50</sup>、6月の選挙でXAが大きく支持を失うことはなかった。2013年9月におこった、反ファシストのラップ歌手パヴロス・フィサス殺害事件では、容疑者としてXAの党員数人が逮捕された<sup>51</sup>。しかし、これも2015年1月の総選挙の有権者の投票行動に大きな影響を与えることはなかった。長引く経済危機と2015年に急増した中東からの移民のヨーロッパへの流入に直面して、ヨーロッパ各国で極右政党の台頭が観察されている。しかしながら、XAのようにあからさまに暴力を肯定しながら勢力を拡大している政党はほかにない。この点はXAの特異な点としてあげることができよう。

ギリシアでは、他人の暴力の行使には寛容な傾向が見られるという調査がある。ギリシアにおける政治の急進化を調査した研究者によると、危機発生後の2011年夏にインタビューに答えた約100人のギリシア人のほとんどが、みずから暴力を行使することには反対したものの、相当数は政治家に対する暴力行為は正当化したという。ギリシアには、アナーキズムの長い伝統があり、アナーキストが暴力で国家に反抗するというやり方は、反体制運動のひとつのかたちとして日常生活に浸透している<sup>52</sup>。このため人々は、みずから暴力を行使はしないが、誰かほかの人が不正に対して暴力によって復讐を果たしてもらいたいという潜在的な願望を有しており、暴力実行者に寛容であるとの指摘がなされている<sup>53</sup>。XAの暴力も、疲弊する現在のギリシア人の憤りのはけ口とみなされている可能性がある。

危機後の選挙でのXAの台頭は、当初、ギリシア人の右傾化というよりも、従来の政治体制への抗議を意味する票にすぎないと見られていた。しかしながら、XAは、これまで政治に興味のなかった新たな層を取り込んでいることが明らかとなっている<sup>54</sup>。しかも、2012年の9月から11月に実施された支持政党と思想傾向についての調査では、XAの支持者の約半数(46%)が「民族主義者」と回答している。回答を得た有権者全体で「民族主義者」と回答した割合が6%であることを考慮すると、XA支持

者の民族主義者はきわめて高い割合といえる<sup>55</sup>。XAの支持は、既存政治体制への単なる抗議ではない、ギリシア社会、ギリシア国民の心理状況の変化に根ざしていると考えられよう。

今日のギリシアの危機を社会心理学的見地から分析したドラゴナスによると、危機はギリシア人から物質的な支えを奪っただけではなく、意識の上でも大きな変化をもたらしたという。ギリシア人に挫折感、恥の意識、屈辱感を与え、自身のアイデンティティ、自分が何者であるかという意識に傷を残した。ギリシアという国家の未来は債権者の手のなかにあり、自分たちは手の施しようがない。このような現実の脅威によって、個々のギリシア人自身は主体性を奪われ、個人の境界線はあいまいになる。その結果、より集団的な「偽りの自己」に飲み込まれてしまっていると観察している。この「偽りの自己」こそがXAである。XAは、集団の合意に支えられることで、現実を超越した社会的現実、言い換えれば幻想を創出することができる。それは現実の耐え難さをやわらげてくれる<sup>56</sup>。

XAによる幻想の創出において、ギリシアの歴史と伝統が果たしている役割は無視できない重要性を持つ。

現政権のSYRIZAも、ギリシアの歴史を利用して、多くの国民の共感を得ることに成功した。SYRIZAは政権掌握後直ちに、ドイツに対する第二次世界大戦中の損害賠償請求を検討することを明らかにした<sup>57</sup>。首相ツィプラスは、この要求は「国民に対する道徳的な義務」であるとも語った。ギリシア人の威厳の回復のために、これは必要なことであるとの認識を示したのである。このSYRIZAによる歴史の利用は、ギリシア人が今日直面している借金との相殺を実際には意図したものと理解された。ここでは、少なくともギリシア史と現実の問題の連関が確認できる。

一方、XAによるギリシア史の利用は、これとは大きく異なるように思われる。XAは歴史によってギリシア人を現実から逃避させ、「ギリシア人」と「そのほかの人々（他者）」の間に明確な線引きをする。ギリシア民族の優秀性という殻のなかにギリシア国民を囲い込み、殻のなかにいる人々の仲間意識を強化して、その心地よさのなかに彼らを安住させようとして

いる。殻の内側と外側は遮断されている。外側は常に敵でしかない。

XAのホームページでは、彼らの政治的信条、政治プログラム、国会活動といった政党としての活動を報告するページだけでなく、「歴史—文明 (Ιστορία-Πολιτισμός)」と題されたページが常設され、頻繁に更新されている<sup>58</sup>。ここでは、「古代ギリシア—ビザンツ帝国—近現代ギリシア」という、19世紀のギリシア人歴史家コンスタンディノス・パパリゴブロスが定式化した、民族主義的歴史観——古代から途切れることなく継続してきたギリシア史と万古不易のギリシア人——が見事に反映されている。古代ギリシアの哲学者、歴史家の業績、ベルシャ戦争でのギリシア都市国家の奮闘、アレクサンドロス大王の帝国建設、ビザンツ帝国軍と外敵との間断なき戦い、オスマン帝国に反旗を翻した独立戦争、ギリシア現代史を彩る外国勢力への抵抗。これを読めば、ギリシア民族として闘い続け、死を賭してその民族性を維持してきたことの、一種の美しさに感銘をうける。正しい側にいるのは常にギリシア人である。読み手は、XAの歴史の語りから、選民としてのギリシア人意識が再確認できる。ギリシア人は民族の優秀性という殻のなかに安住するだろう。過去の歴史が証明しているように、ギリシアは、ギリシア民族は、必ずや再び蘇るだろうとの根拠のない幻想と期待を人々にふりまく。

XAが週に一度発行している新聞『前進 (Εμπρός)』が扱っている内容も、時事問題というよりは、ギリシアの歴史と文化に関連するテーマに著しく偏っている。たとえば、2016年10月8日の一面は、「私は忘れない (ΔΕΝ ΞΕΧΝΩ)」という大きな見出しとともに、1920年当時ギリシア国内で非常に人気を博したポスターを一面に掲げている (【図3】)。このポスターのなかで、ギリシア国旗を背景に立つ女性はギリシアという国家を象徴している。彼女が右手で支えている紙らしきものには、「ギリシアは生きる運命にあり、未来にも生き続けるだろう」という言葉が記されている。女性の右側の地図中の濃い色の部分は、1920年当時のギリシアの領土を示している。ギリシアは独立以来、歴史的にギリシア民族が住んだ領域、あるいは、ギリシア文化の影響下にあった領域を国家に包摂する権利を持つという政



## ΔΕΝ ΣΕΧΝΩ !



«ΠΑΡΜΕΝΙΟΝ 2016»  
Διαπιστώσεις  
και συμπεράσματα

σελ. 6

ΓΙΑΝΝΗΣ ΣΧΟΙΝΑΣ  
«...στις δικές μας  
πηγές...»

σελ. 3

ΕΡΝΤΟΓΑΝ - ΤΣΙΠΡΑΣ  
Δύο «αδελφοί»  
ηγέτες

σελ. 24

ΒΑΛΚΑΝΙΚΟΙ ΠΟΛΕΜΟΙ  
Η Ανάσταση του  
Ελληνικού Έθνους

σελ. 13

STOP στους πρόκοτες των τούρκων • Τι ορίζει την Αρμενιά • Στάδιο -Ταίφι Ερντογάν- στα Σκόπια • Νέμοι και περιβάλλον • Ούγγροι αναλυτές: Χιλιάδες μουσουλμάνοι στρατώτες στην Ευρώπη • Ο Ιερραμίας, η φουστάνελα και η στέγη • Η Ελληνική γλώσσα και ο Φίλιξ • Επίδειξη ιακούς από την Ρωσία

【图3】新聞『前進』第一面（2016年10月8日）

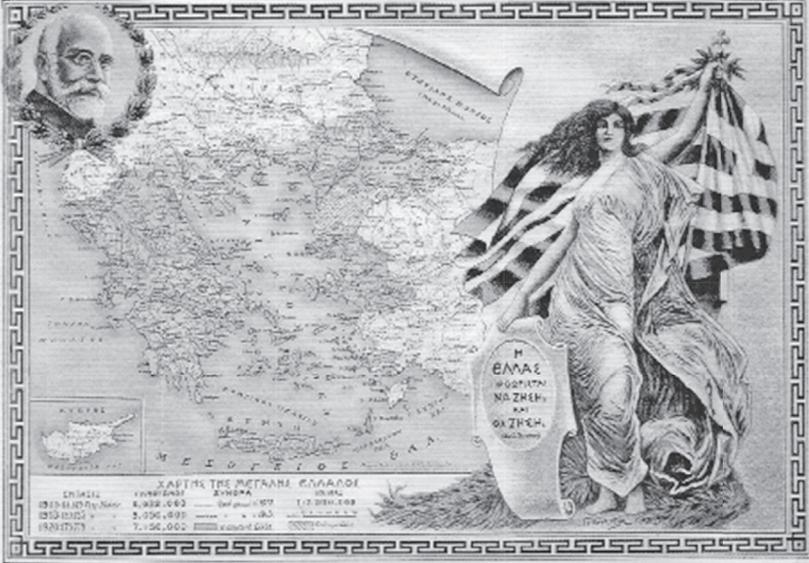
治思想（メガリ・イデア）に基づき、それを実現するための領土拡張政策を推進してきた。その目標とする領域は、今日のギリシアの領土であるバルカン半島南端とエーゲ海にとどまらず、小アジアの西岸にまで及んでいた。なによりも、当時オスマン帝国の首都であったイスタンブルを獲得することを目指した。メガリ・イデアは、かつてのビザンツ帝国の復興ともみなされうる<sup>59</sup>。しかもメガリ・イデアの夢は、第一次世界大戦直後に実

現するかと思われた。このため、1920年当時、ギリシア人のナショナリズムは最高潮に達した。最終的に西欧列強から見放され、1922年、ムスタファ・ケマル率いるトルコ革命政府軍との戦いに敗れたギリシアは、小アジアもイスタンブルも手にすることなく終わった。

当時のポスター（【図4】<sup>60</sup>）と『前進』に掲載された図柄とで唯一違う点は、左上の部分である。1920年当時、この部分にはメガリ・イデアを積極的に推進した首相ヴェニゼロスが描かれていた。『前進』版では、ここには、ビザンツ帝国を象徴する双頭の鷲の文様の中央にXAのシンボルであるギリシア雷文が描かれている。1世紀前のギリシア民族の屈辱を「忘れない」と今改めてこの紙面で表明することの意味はなんだろうか。XAが、いまだメガリ・イデアの夢を捨てていないということ。その実現のための主導権を自分たちが握ろうとするということだろう。

一見したところ時代錯誤的で荒唐無稽なこの主張も、殻のなかのギリシア人には現実味を帯びたものとして響いたと考えられる。というのは、この新聞が発行される数日前の9月末には、トルコの現首相エルドアンが、1922年のギリシア敗戦後に結ばれた、ギリシアとトルコの現在の領土画定にかかわるローザンヌ条約に、不満を持っているとの報道がなされたからである<sup>61</sup>。トルコには領土修正の意図があるのかと、ギリシアでは不安が煽られた。XAはそのギリシア人の不安に対して、それに対処できるのは自分たちであると、みずから民族の救済者を自任している。それはかつて「救済者」と呼ばれたヴェニゼロスにみずからの姿を重ねているとも言える<sup>62</sup>。

XAは、民族主義的イデオロギー評論を目的とした『メアンドロス (ΜΑΙΑΝΔΡΟΣ)』という雑誌も不定期に発行している。その最新号（2016年1月）には、「民族意識の武器としての歴史 (Η Ιστορία ως όπλο εθνικής συνείδησης)」という論考が掲載されている。そこでは、近年ギリシアの教育現場でみられる、マルクス主義的修正主義の歴史の見方に異議を唱え、それを唱導している歴史研究者を名指しで批判している。民族色を消した歴史は無意味であり、反ギリシア的であると断ずる。論考では、ギリ



【図4】 1920年当時のポスター

シア史を以下のようにまとめている。

ギリシア史は、概して、賢明さ、国を愛する精神、ヒロイズムからなる輝かしいモザイクである。〔歴史書の〕どのページを繰っても、ギリシア人が新たな境地を切り開き、武器を手に戦い、現実的にも形而上的にも熟慮を重ね、城砦を築いては守り、城壁の後ろには塹壕を掘り、密集隊形をつくり、戦歌を歌い、神聖で尊いものを守るための戦いに赴くののをわれわれは目撃するだろう。

Η Ελληνική Ιστορία είναι συλλήβδην ένα λαμπρό μωσαϊκό ευφυΐας, φιλοπατρίας και ηρωισμού. Όποια σελίδα και αν γυρίσουμε θα δούμε Έλληνες να καινοτομούν, να επαναστατούν, να προβληματίζονται φυσικά και μεταφυσικά, να χτίζουν και να υπερασπίζονται Κάστρα, να οχυρώνονται πίσω από τείχη, να σχηματίζουν οπλιτικές φάλαγγες, να ψάλλουν τον Παιάνα και να βαδίζουν στην Μάχη για τα ιερά και τα όσια.<sup>63</sup>

ここでも主張されているように、XAの歴史観は、愛国的で英雄的な戦いの連続であり、それはすべてギリシア民族にとって神聖なものを守るという大義によって正当化されるものである。そこには、他民族への心配りや、より広い視野に立ってギリシア民族の歴史を相対化するという態度は見られない。しかし、このXAの歴史観は、EU諸国に自分たちの声を聞き入れてもらえず「二級市民」扱いされ、EU諸国内国民一般の調査で、最も怠惰で最も信頼がおけないとの印象を持たれている<sup>64</sup>、打ちのめされたギリシア人には<sup>65</sup>、ギリシア民族「再生」の福音のように受け入れられている可能性が否定できない。

XAは、経済危機によって台頭のチャンスを得た。二大政党制が崩壊して不安定な政治が現出するなかで、XAが安定した支持を保ち続けている秘密のひとつは、この政党のギリシア史の解釈に求めることができると考えられる。

## おわりに

本稿では、ギリシアの財政危機の結果引き起こされた政治変動について、これまでの経過を概観してきた。現在はSYRIZAが政権についている。しかし、この政権の支持率は国民投票を契機に下落する一方であり、支持率上昇の見込みもない。SYRIZA政権の命脈もまもなく尽きることであろう。

2016年11月はじめ、欧州委員会は、2017年にはギリシア経済は持ち直すであろうと発表した<sup>66</sup>。しかしながら、現在のギリシア政治の不安定と疲弊した社会の現状を考慮すると、欧州委員会の言葉を安易に信じるべきではない。アメリカのオバマ大統領は、在任中最後の外遊先としてギリシアを訪問した。2016年11月16日のアテネでの演説で、大統領は、緊縮策継続の有効性に疑問を呈し、ギリシアの債務を削減することがギリシア経済の再生につながるとの立場を表明した<sup>67</sup>。大統領のこの演説はギリシア人一般には好意的に受け止められた。しかし、退任間近の大統領の言葉に、これまで緊縮策に固執してきたEUが、どの程度耳を傾けるかは未知数であ

る。

ギリシア政治が今後どのような展開を示していくのか、それによって国民はいかなる影響をこうむるのか、あるいはいかなる反応を見せるのかを予想することは難しい。

現段階で、XAが次期政権を担う勢力になるほどの支持を得るようになるとは思われない。しかし、既存の政党が、従来のギリシア政治の手法を刷新することができず、行き詰った現状が長引くことになるなら、XAが人心を掌握する可能性は増すことになるだろう。

ギリシア財政危機が引き起こした政治の変動を、私たちは今後も注意深く観察する必要がある。

---

<sup>1</sup> <http://www.ifinance.ne.jp/glossary/world/wor010.html> (2016年11月9日最終閲覧)

<sup>2</sup> 支援は一度におこなわれるのではなく、改革の進行具合が審査されたうえで、小分けにおこなわれる。第三次支援の第一次審査では、ギリシアに「宿題」として課した15の改革が実行とEU首脳会議で評価されたことで11億ユーロの資金援助が認められた。<http://www.consilium.europa.eu/en/press/press-releases/2016/10/10-eurogroup-statement-on-greece/> (2016年10月12日最終閲覧)

<sup>3</sup> IMFは、ギリシア危機の抜本的解決のためには、資金を援助するのではなく、債務そのものを大幅に免除すべきであるとの立場である。“Greece: An Update of IMF Staff’s Preliminary Public Debt Sustainability Analysis,”<http://graphics8.nytimes.com/packages/pdf/business/IMF-Greece.pdf>; “I.M.F. Demands Greek Debt Relief as Condition for Bailout,”[http://www.nytimes.com/2015/07/15/business/international/international-monetary-fund-proposed-greek-debt-relief.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/2015/07/15/business/international/international-monetary-fund-proposed-greek-debt-relief.html?_r=0) (ともに2016年10月12日最終閲覧)

<sup>4</sup> 土田陽介「ギリシャの銀行危機長期化と政策対応」『証券経済研究』第95号(2016年9月) 76頁図表1の一部データを転載。

<sup>5</sup> “Explaining Greek Crisis,”  
[http://www.nytimes.com/interactive/2016/business/international/greece-debt-crisis-euro.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/interactive/2016/business/international/greece-debt-crisis-euro.html?_r=0) (2016年10月26日最終閲覧)

<sup>6</sup> 土田陽介「ギリシアにおける国有企業民営化の現段階」『証券経済研究』第91号(2015年9月) 111-114頁。

<sup>7</sup> “Greece cuts TV channels from Eight to Four in Controversial License Auction,” <https://www.theguardian.com/media/2016/sep/02/greece-tv-channels-licence-auction>; “Winning Bidder fro TV License Fails to Make First Payment Withdraws from Contention,”  
<http://www.ekathimerini.com/212260/article/ekathimerini/news/poll-says-government-did-not-handle-tv-license-auction-well> (ともに2016年11月9日最終閲覧) このオークションに

- ついては、2016年10月25日に違憲判決が出された。“TV License Law Deemed Unconstitutional,” <http://www.ekathimerini.com/213197/article/ekathimerini/news/tv-license-law-deemed-unconstitutional> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>8</sup> Evgenia Tsortzi, “Still No End to Greece’s Recession in Sight,” <http://www.ekathimerini.com/211647/article/ekathimerini/business/still-no-end-to-greeces-recession-in-sight>.
- <sup>9</sup> Antonios Liakos and Hara Kouki, “Narrating the Story of a Failed National Transition: Discourses on the Greek Crisis, 2010-2014,” *Historein*15-1(2015): 49-61.
- <sup>10</sup> Hara Kuki, “European Crisis Discourses: The Case of Greece,” in *Crisis Discourses in Europe: Media EU-phemisms and Alternative Narratives*, ed. Tamsin Murray-Leach, 18. Background paper of the Civil Society and Human Security Research Unit of the London School of Economics, 2014(June).  
<http://www.gcsknowledgebase.org/europe/files/2014/07/CrisisDiscoursesinEurope.pdf>. (2016年10月19日最終閲覧) 今日のギリシアの財政危機とクライエントリズムの関係については以下が参照になる。Aris Trantidis, *Clientelism and Economic Policy: Greece and the Crisis* (Routledge: London and New York, 2016).
- <sup>11</sup> <http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2009/pages/index.html> (ギリシア内務省資料); [http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012a/public/index.html#|\"cls\":\"main\", \"params\":|}|](http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012a/public/index.html#|\) (ギリシア内務省資料) (2016年10月19日最終閲覧)
- <sup>12</sup> 拙稿「民主化後のギリシアの政治構造——ギリシア型ポピュリズムと欧州統合の理想」『人文・自然研究』（一橋大学大学教育研究開発センター）第8号（2014年）348-354頁。
- <sup>13</sup> [http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2015a/v/public/index.html#|\"cls\":\"main\", \"params\":|}|](http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2015a/v/public/index.html#|\) (ギリシア内務省資料) (2016年10月19日最終閲覧) ギリシアでは、政党の得票率が3%ないと、その政党には議会での議席を与えられない。
- <sup>14</sup> “We Have Created a Monster,” <http://www.spiegel.de/international/europe/thomas-piketty-interview-about-the-european-financial-crisis-a-1022629.html>; “Tsipras win draws French Congratulations, German Threat,” <http://www.ekathimerini.com/166598/article/ekathimerini/news/tsipras-win-draws-french-congratulations-german-threat>; “Head of Lazard Paris Says Troika ‘All Wrong on Greece,’” <http://www.ekathimerini.com/167130/article/ekathimerini/business/head-of-lazard-paris-says-troika-all-wrong-on-greece> (2016年10月31日最終閲覧)
- <sup>15</sup> ツィプラスの施政方針演説は、「ギリシア共和国首相ホームページ」(<http://primeminister.gr/2015/02/08/13322>) に掲載されているテキストを参照した。(2016年10月22日最終閲覧)
- <sup>16</sup> 「屈辱の政治」が今後のヨーロッパに与える影響の大きさについては、以下を参考。Natalie Nougayrède, “If Greece and Russia Feel Humiliated, That’s Something Europe Cannot Ignore,” <https://www.theguardian.com/commentisfree/2015/jun/18/greece-russia-humiliated-europe> (2016年10月24日最終閲覧)
- <sup>17</sup> “Greece Crisis Timeline: Rocky Road Another Bailout,” <https://www.theguardian.com/business/2015/aug/20/greece-crisis-timeline-rocky-road-another-bailout> (2016年11月9日最終閲覧)

- <sup>18</sup> Ibid.
- <sup>19</sup> <http://primeminister.gr/2015/06/27/13822> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>20</sup> Ibid.
- <sup>21</sup> <http://primeminister.gr/2015/06/28/13826> (2016年10月24日最終閲覧)
- <sup>22</sup> <http://primeminister.gr/english/2015/07/01/prime-minister-alexis-tsipras-message/> (2016年10月24日最終閲覧)
- <sup>23</sup> 日本のメディアでも、この国民投票は、実質的にはユーロ圏離脱か否かを問うものとして報じられた。「EU『緊縮策賛成を』——ギリシャ国民投票を見据え」『朝日新聞』(朝刊)2016年6月30日、「ユーロ圏残留か孤立か——ギリシャ明日国民投票」『日本経済新聞』(朝刊)2016年7月4日
- <sup>24</sup> <http://primeminister.gr/2015/07/04/13848> (2016年10月24日最終閲覧)
- <sup>25</sup> “Greek Crisis: Surrender Fiscal Sovereignty in Return for Bailout, Merkel Tells Tsipras,” <https://www.theguardian.com/business/2015/jul/12/greek-crisis-surrender-fiscal-sovereignty-in-return-for-bailout-merkel-tells-tsipras> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>26</sup> John Cassidy, “A Humiliating Deal for Greece,” <http://www.newyorker.com/news/john-cassidy/a-humiliating-deal-for-greece> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>27</sup> Ian Parker, “The Greek Warrior: How Radical Finance Minister took on Europe —and Failed,” <http://www.newyorker.com/magazine/2015/08/03/the-greek-warrior> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>28</sup> “Greek PM denies Grexit Plot, Defends Varfakis’s ‘Plan B,’” <http://www.ekathimerini.com/200116/article/ekathimerini/news/greek-pm-denies-grexit-plot-defends-varoufakiss-plan-b> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>29</sup> 遠藤乾『欧州複合危機』(中央公論新社、2016年)124頁。
- <sup>30</sup> [http://ekloges.ypes.gr/current/v/public/index.html#{"cls":"main","params":{}}](http://ekloges.ypes.gr/current/v/public/index.html#{) (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>31</sup> Paul Taggart, *Populism* (Buckingham and Philadelphia: Open University Press, 2000), 14.
- <sup>32</sup> “New Democracy 6.4 Percent Ahead of Syriza, Alco Poll Shows,” <http://www.ekathimerini.com/212892/article/ekathimerini/news/new-democracy-64-percent-ahead-of-syriza-alco-poll-shows> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>33</sup> [http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012a/public/index.html#{"cls":"main","params":{}}](http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012a/public/index.html#{);  
[http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012b/public/#{"cls":"main","params":{}}](http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012b/public/#{) (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>34</sup> Sofia Vasilopoulou & Daphne Halikiopoulou, *The Golden Dawn’s ‘Nationalist Solution’* (New York: Palgrave Macmillan, 2016), 20-21.
- <sup>35</sup> <http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2009/pages/index.html> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>36</sup> [http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012a/public/index.html#{"cls":"main","params":{}}](http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012a/public/index.html#{);  
[http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012b/public/#{"cls":"main","params":{}}](http://ekloges-prev.singularlogic.eu/v2012b/public/#{) (ともに2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>37</sup> Antonis A. Ellinas, “The Rise of Golden Dawn: The New Face of the Far Right in Greece,” *South Eastern Society and Politics*(2013)18-4: 557.

- <sup>38</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 547.
- <sup>39</sup> Vasilopoulou & Halikiopoulou, *The Golden Dawn's 'Nationalist Solution'*, 16.
- <sup>40</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 547.
- <sup>41</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 548. ミハロリアコス は、1984年に軍事政権の元指導者ゲオルギオス・パパドプロスによって1984年に結党された民族政治同盟（EPEN）の青年部総裁に就任した。このことがXAの政党としての活動が遅れた原因であるという見解もある。この見解によると、のちにXAと軍事政権のイデオロギーの相違から、ミハロリアコスはEPEN総裁を辞任し、XAの政治活動に専念することとなったという。Vasilopoulou & Halikiopoulou, *The Golden Dawn's 'Nationalist Solution'*, 17.
- <sup>42</sup> 「135. アッティカ幾何学様式アンフォラ」の部分『特別展 古代ギリシャ——時空を超えた旅』図録（2016年）142頁
- <sup>43</sup> XAのホームページ（<http://www.xryshaygh.com/>）より
- <sup>44</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 549-550.
- <sup>45</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 551-552.
- <sup>46</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 550.
- <sup>47</sup> «Ταυτότητα», <http://www.xryshaygh.com/kinima>（2016年11月9日最終閲覧）
- <sup>48</sup> 2014年の調査では、議会への信頼は26%、政党への信頼は11%だった。一方、軍への信頼は80%、警察への信頼は70%だった。さらに、2015年の調査では、軍への信頼は87%まで上昇し、議会と政党への信頼はそれぞれ、27%と10%にとどまった。Thalia Dragonas, "Golden Dawn through a Psychosocial Lens," *Historein* 15-2 (2015): 57.
- <sup>49</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 559.
- <sup>50</sup> [https://www.youtube.com/watch?v=Nte1UtRww\\_k](https://www.youtube.com/watch?v=Nte1UtRww_k)（2016年11月9日最終閲覧）
- <sup>51</sup> "Greek Golden Dawn Member Arrested Over Murder of Leftwing Hip-hop Artist," <https://www.theguardian.com/world/2013/sep/18/greece-murder-golden-dawn>（2016年11月9日最終閲覧）
- <sup>52</sup> 2016年11月17日、アテネ工科大学付近でアナーキストと警官との間で衝突がみられた。1973年の同日、軍事政権に反対してアテネ工科大学に集結した学生に対し、政府が戦車を正門から突入させ、武装警官と軍が暴行を加え、7000人あまりが逮捕、数百人が負傷した。このため毎年この日にはアナーキストによる何らかの行動が観察される。"Rioters leave a trail of destruction at university," <http://www.ekathimerini.com/213850/article/ekathimerini/news/rioters-leave-a-trail-of-destruction-at-university>（2016年11月20日最終閲覧）
- <sup>53</sup> Arthur Versluis, "A Conversation about Radicalism in Contemporary Greece," *Journal for the Study of Radicalism* 10, no.1 (2016): 159-160.
- <sup>54</sup> Ellinas, "The Rise of Golden Dawn," 558.
- <sup>55</sup> <http://www.publicissue.gr/2058/ideology-2/>（2016年11月9日最終閲覧）なお同調査では、「社会民主主義者」と「特になし」がともに15%で、有権者のなかで最も多かった回答である。
- <sup>56</sup> Dragonas, "Golden Dawn through a Psychosocial Lens," 59-60.
- <sup>57</sup> "Greece to Demand that Germany Pay Reparations for WWII," <http://www.japantimes>.

- co.jp/news/2015/02/09/world/politics-diplomacy-world/greece-to-demand-that-germany-pay-reparations-for-wwii/#.WBcPPU27pmU (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>58</sup> <http://www.xryshaygh.com/enimerosi/istoria> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>59</sup> 「メガリ・イデア」については、以下を参照。Molly Greene, "Great Idea," Graham Speake ed. *Encyclopedia of Greece and the Hellenic Tradition*, vol.1 (London & Chicago: Fitzroy Dearborn Publishers, 2000), 688-690.
- <sup>60</sup> Michael Llewellyn Smith, *Ionian Vision: Greece in Asia Minor, 1919-1922* (Ann Arbor: The University of Michigan Press, 2000) 表紙
- <sup>61</sup> Nikos Konstandaras, "Erdogan as Ataturk," <http://www.ekathimerini.com/212423/opinion/ekathimerini/comment/erdogan-as-ataturk> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>62</sup> cf.) Mark Mazower, "The Messiah and the Bourgeoisie: Venizelos and Politics in Greece, 1909-1912," *The Historical Journal* 35, no. 4(1992): 885-904.
- <sup>63</sup> Νικόλας Λεμοντζής, «Η Ιστορία ως όπλο εθνικής συνείδησης», ΜΑΙΑΝΔΡΟΣ 12(2016):36.
- <sup>64</sup> アメリカのシンクタンク・ピュー研究所による2012年と2013年の意識調査では、最も怠惰で信用がおけない国として複数のEU諸国が、ギリシアを挙げている。一方、最も勤勉で信用がおける国として、ギリシアのみが自国を挙げている。<http://www.pewresearch.org/fact-tank/2015/07/07/5-facts-about-greece-and-the-eu/> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>65</sup> 2016年11月4日にアテネで開催された精神衛生会議において、ギリシア人の50万人が鬱病状態にあると報告された。その直接の原因として経済危機を挙げる専門家もいる。ELSTATギリシア統計局によると、全人口の約38%が社会的疎外の瀬戸際に位置し、貧困線に近づいているとしている。35%の自殺率の増加の原因を緊縮策に求める専門家もいる。"Greeks Gripped by Depression," <http://www.ekathimerini.com/213409/article/ekathimerini/news/greeks-gripped-by-depression> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>66</sup> "Greece in Recession in 2015, 2015, Sharp Upturn in 2017, Says Commission," <http://www.ekathimerini.com/203167/article/ekathimerini/business/greece-in-recession-in-2015-2016-sharp-upturn-in-2017-says-commission> (2016年11月9日最終閲覧)
- <sup>67</sup> <http://www.ekathimerini.com/213785/article/ekathimerini/comment/in-the-birthplace-of-democracy-obama-extols-its-virtues> (2016年11月17日最終閲覧)

